祐介の目

No.169

大田祐介（福山市議会議員）

日本ワインの未来

今年も山野峡ワインの新酒ができた。山野町の自然と共に育まれたぶどうは年々生産量も増え、醸造責任者も努力を重ね美味しいワインとして結実している。しかし、国内ワイナリーは私が創業した10年前と比較して倍増の５００軒となった。ワインの国内消費はそれほど伸びておらず、経営的に厳しい事業所もある。

さらに原料ぶどうの価格高騰や生産量の減少も追い打ちをかけている。ぶどう農家の高齢化が原因であり、温暖化による着色不良もある。今年のような猛暑の中での農作業は本当に堪えた。また、若者のアルコール離れや、酒税の税率アップ、円安なれど輸入ワインの関税ゼロ等、厳しい環境の中で多くのワイナリーが奮闘している。ワインに限らず民間企業の努力には身につまされるだけに本当に頭が下がる。この経験を議会に届けるのが私の使命と感じる。

さて、悲観論ばかり述べても仕方が無い。ワイナリーは儲からないが夢がある。久しぶりに山野町に帰った方が「景色が変わった」と言われた。耕作放棄地が一面のぶどう畑に変わり、心豊かになると同時に地方創生を体現できる。山野峡ワインのファンは袋かけや収穫等の農作業も手伝ってくれる。彼らを「わいん農家」と呼び、自然の中で一緒に汗を流して苦労を分かち合い、新酒によるワイン会も開催している。皆様にもぜひワイナリーに癒やされに来て欲しい。

今、農業政策が岐路にある。国産農産物や食料自給率をいかに増やすか、それには国民が国産品を選んで消費しないと実現しないだろう。木ノ庄にあるナチュラルマーケットｉｋｏに行ってみれば、昔ながらの手間暇のかかった国産品が多数置いてある。時にはご褒美として購入し、本物を作っている生産者を応援したくなる。和食に限らず国産農産物による料理には食中酒として日本ワインが合う。日本ワインには「日本らしさ」を持ったワイン文化が花開く未来があると私は信じている。この年末年始はぜひ山野峡ワインで乾杯していただきたい。